



TBS テレビ入社式佐々木社長挨拶 「歴史の創造者たれ」

本日、TBS テレビの2019年度入社式が行われ、佐々木卓社長ほか幹部が出席、新入社員の入社を祝福しました。

■ 新入社員数

38名(アナウンサー4名、技術5名、ビジュアルデザイン2名、一般23名、キャリア採用4名)

■ 佐々木卓社長 挨拶

皆さん本当におめでとうございます。ここに駆け付けたのはごく一部ですが、この後ろには1,300人のTBSの社員が、さらにその後ろには7,000人のグループの仲間が、皆さんの入社を祝っています。皆さんは新しい元号の第一期生です。そういう意味では、TBSの歴史の中に名を刻む同期と言えらると思います。はなむけの言葉として皆さんに贈りたいのは「歴史の創造者たれ」。皆さんの手でTBSテレビの歴史を作っていたいただきたいと思います。

TBSは1983年に首位を陥落しました。一旦どん底まで落ちました。TBSはその歴史を、どん底の時に失ったと言ってもいいと思います。4、5年前から復調して今3位です。そして、2018年度のG帯の視聴率が10%になりました。この厳しい時代に10%になったのは、2011年以来7年ぶり。こういう上昇気運の中で、皆さんに新しい歴史を作っていたいただきたいと思います。

さらに、時代が大きく変わっています。メディアの取り巻く環境もすっかり変わり、デジタル広告費が、我々テレビの広告費を抜くのも時間の問題と言われていています。メディア革命が起きるだろうと言われて、その時テレビはどうやって生き残るのか。また、海外勢の影響は大きく、こういった中で我々が今までのままでいいはずがない。どこに向かっていくか、その新たな地平線を、皆さんに探していただきたいと思います。まだ山に隠れていたり霧に覆われていたりして、その地平線は見えていません。新しい地平線を探し出して、動画配信で頑張るんだ、ライブエンターテインメントで頑張るんだ、海外に出ていくんだ、知育や教育のことをやっていくんだ…そういう新しい地平線を見つけて、TBS史上初、テレビ史上初の出来事を起こして、歴史を作っていたいただきたいと思います。

また、一人ひとりがレジェンドとして名前を残すんだ、という思いで仕事をしていただきたいたのですが、やはりチームを優勝させてこそその名選手です。自分のためだけに動いていたなら名選手として名を残せません。チームが優勝した時に記録が残り、人の記憶に残るものです。チームのために働くことを忘れずに、仕事をしていただきたいたと思います。

最後に皆さんに一編の詩をご紹介します。

アメリカの詩人サミュエル・ウルマンが書いた「青春」(岡田義夫訳)です。冒頭の 4 行をまず贈ります。

青春とは人生の或る期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ。

優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、

安易を振り捨てる冒険心、こう言う様相を青春と言うのだ。

年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。

これは、まさに今の皆さんのこと。そして、途中でこんな 2 行が出てきます。この 2 行を捧げたいと思います。

人は信念と共に若く 疑惑と共に老ゆる。

人は自信と共に若く 恐怖と共に老ゆる。

皆さんを老いさせてしまう「疑惑」と「恐怖」とは何か。私は「疑心暗鬼」なのではないかと思います。自分を信じられなくなってやけくそになってしまうこと、妬み、自分が人からどう思われているんだろうと猜疑心の塊になってしまうこと。こういった一つひとつが皆さんを老いさせるのではないのでしょうか。そういう敵と戦うためにはどうすればいいか。それは悪口を言わないことです。人の悪口を言うと、猜疑心、嫉妬心を呼び、自暴自棄になります。この悪口という敵と戦うと、必ず皆さんは青春のままでいられると思います。疑心暗鬼という敵と戦って、輝かしい未来へと堂々と歩いていただきたいと思います。

本日は本当におめでとうございました。

以上